

6月 運動場芝生維持管理だより

保健体育課
体力向上推進係

例年より2週間も早く梅雨に入り、各校とも冬芝がまだまだ元気で、晴れ間を待って刈り込み作業がされています。これからは夏芝との生え替わりの時期で、維持管理に頭を悩まされる時期だと思われます。

この時期の維持管理に関して、基本的な情報をお知らせします。内容については、「シビルまちづくりステーション」に協力をいただいています。

1 散水

6月に入り、散水を始めた学校もあると思いますが、基本的には雨天時以外は、1日1回1000㎡あたり1mm(1t)程度の散水が適当です。各校で設置されているスプリンクラーから計算すると、10分1回の散水設定でOKです。時間帯は夜中の2時～3時であれば、朝からの授業に影響はないと思います。学校の実態に合わせて調節をお願いします。なお、面倒ですが、雨天時や数日雨が続いた後は散水の必要はないので、タイマーのON,OFFの切り替えを行ってください。

夏場も同じ水量で維持できますが、使用頻度や芝生の状態を確認しながら散水してください。芝生の状態がしおれて、緑色が薄くなり、カールしてきたらやや水不足の状態です。15分1回程度に変更してください。

2 追肥

冬芝から夏芝に生え替わる時期(トランジション)でもあり、追肥の回数や量は難しくなってきます。基本的にはこの時期の冬芝には肥料はいりませんが、夏芝に元気の素を与えなくてはなりません。梅雨の合間をぬって、刈り込み作業を続け、夏芝が勢いを増してきたときに、追肥を行ってください。量は1000㎡あたり1ヶ月に20～30kgと考えてください。芝生の育成状態や運動場の使用頻度も見ながら、回数、量や時期を調節します。

3 補植

夏芝が勢いを増してくると、定着していないところや傷みが大きい箇所が現れてきます。補植をする場合には、この時期が適当です。養生期間を考えて、補植を行います。ポット苗を準備し、5㎡あたり1シートの補植を目安とします。いくら補植を行っても、使用頻度が高い場所(トラックや野球の定位置等)は、定着しないので、使用箇所を移動したり、十分な養生期間をとったりします。また、補植の時期がずれるときは、補植用シートの管理を適切(水やり、刈り込み等)に行います。

4 刈り込み

冬芝の育成状態にもよりますが、夏芝の育成を促すためにも、1週間から2週間に一度、短く(3～4cm設定)刈り込み、夏芝に日が当たるように作業を行ってください。夏芝に生え替わった後は、芝生の様子を見ながら、刈り込み作業を行います。

※ 芝生の状態は各校によって違います。また、気象状況も変化します。芝生の様子を見ながら、作業を調節してください。詳しいことが、お聞きになりたいときは、担当係までご連絡ください。

各校の様子

